

佐藤心石 きんせき 漢詩人、俳人。文久四年二月六日越後國生れ、昭和

二年四月二十一日歿（二六四一七三）。諱寛、字六定。別號心石居士、

六石山人、六石老人、六石頑老、古多假屋更、破霞、和田藏、子栗、

愛香、寫玉、寫玉先生、寫玉山人、寫玉墨人、燕喜堂主人、飯人、鱸

十六居士人、麴亭、麴亭主人、麴亭飯人、麴町主人、麴街散人、麴街

散人、佐藤破霞、佐藤寫玉、佐藤飯人等。郷儒大野貳堂に學ぶ。明治

十五年「新潟日日新聞」編輯長、十七年上京、二十年皇典講究所卒。

二十五年渡應義塾教授、二十九年渡韓し李王家顧問兼英親王侍讀、四

十二年歸國後「やまと新聞」理事、會社社長など。この間森槐南等の

星社に加入し、角田竹冷、大野河竹等の秋聲會にも關與、二十二年の

は附合一茶庵と新舊雨派融合の目的を以て如月會を興した。二十六年

俳誌「卯杖」創刊同人、大正六年隨鶴吟社主宰。更に狂詩作家ともあ

り、小説にも筆を執つた文才。

編著書「日本名家詩選」（撰、明治二十四年六月）二十日博文館「東洋

文藝全書」）、「日本詩學新論」（本名、明治二十四年六月）二十九日

文明館）、「名家の文範」全一冊（同、輯、明治二十五年七月）二十

日漢文新誌社）、「官朝千句絶句」

（編、明治二十五年十月）二十日博文

館「寸珍百種」）、「のゝ文範」全

二冊（本名、明治二十六年九月五日

漢文新誌社）、「姥捨山考」（同、

明治二十八年二月）二十一日東京書局

堂出版部）、「日本詩軍」（寫玉山



人名、明治二十八年六月十日、可殊新進堂、可殊評藤田東湖傳家刀、可殊類

亭主人名、學海居上評、明治二十六年八月十日、萬卷堂書局、淨琉璃社

發賣、可殊征霞人捷歌、可殊明治二十七年二月二十日、博文館、可殊白露

戰筆寫真帖、可殊本名、合著、明治二十七年六月十日、英貳輯一佐藤駒

亭名、十月十日、金港堂書籍株式會社、末松謙澄著、青澤集、全二冊

（末松春彦其校、大正十一年十月五日、末松春彦鑄刊）等。